

保健師 最前線

大切にしたい 最初の出会

綾部市

しむら ゆきこ
四村 幸子さん

「保健師さんとして、何を一番心掛けておられますか」。ちよつと意地悪な質問を試してみた。少し考えたあとで、「相手の方と、いかに信頼関係を築くことでしょうか」。

地元の保健師になって8年目になるが、まずは名前を覚えてもらうことが信頼関係の第一歩だと話す。「タレントの志村けんさんの『シムラ』でなくて、(綾部で多い) 四方さんの『四』を書く四村ですと、こんな感じで自己紹介しています」。なるほど。

心身の発達に課題のある乳幼児の相談に力を入れている。一つ一つのケースが重いうえに、それぞれに対応が違うため互いの信頼関係が何より求められるという。「母子と最初に出会ったのが『こんにちは赤ちゃん』訪問ですが、その時の第一印象が大事なんです



綾部市保健福祉センターの前で

よね。相談しやすい、しゃべりやすい人といった印象をもってもらえるか、どうかです」と話す。

「ひと声かけるのと、かけないのでは、その後の信頼関係に大きな差がでるように思っています。実行が伴わず、すべて反省を込めてなんです…」と話す。どうして、どうして、話し上手で、聞き上手である。

もう一つ力を注いでいるのが20歳以上の市民らを対象にした「あやちゃん健康ポイント」事業である。健診の受診や健康イベントに参加し、ポイントが貯まるとがん検診などが無料になるというもの。健康づくりのきっかけにしてもらうのが大きな狙いだ。そのためにも特定健診の受診率アップが課題とされるが「府内自治体の中でお尻から数えて4番目なんです。この受診率を少しでもアップさせたいんです」。

仲間の保健師とともにそれぞれの担当地区に向き、特定健診の呼びかけを地道に続けている。梅雨時に戸別訪問する四村さんの姿に感動した市民の声が、地元の新聞に「健康を支える職員さん」として掲載された。「涙が出るほどうれしかったですが、改めて保健師のやりがいと責任の重さを痛感しました。もっと頑張らなあかんと思います」

趣味はマイカーの車中で歌を唄うことだ。「ただ演歌はだめなんです。こぶしが苦手なので」。職場の仲間とプロ野球観戦にも出かける。「好きな球団は〇〇ですが、これだけは書かないくださいね」。悩むより先に行動する「やっちゃえ」タイプと自己分析する。ささくで、本当にしゃべりやすかったです。

